

2026

11/1



13:00-17:15 開場12:30

国立美術館コレクション・ダイアログ
松方幸次郎 × 山村徳太郎
蒐集のパッション
ーロダンを日本へ、
具体を世界へ

記念シンポジウム

「美術館における彫刻の活用と管理」

会場

兵庫県立美術館 KOBELCOミュージアムホール

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 〒651-0073（最寄駅：阪神岩屋駅/JR灘駅/阪急王子公園駅）

申込方法

先着順（定員150名）＊聴講には本展覧会観覧券が必要です

この秋、兵庫県立美術館では、「国立美術館コレクション・ダイアログ 松方幸次郎×山村徳太郎 蒐集のパッション ーロダンを日本へ、具体を世界へ」展を開催します。

西洋美術を日本へ紹介することを志した松方幸次郎と、戦後日本の前衛美術を未来へ残そうとした山村徳太郎。二人が情熱を注いで集めた作品は、時を経て美術館に託され、いま私たちの前にあります。

では、託された作品を、美術館はどのように守り、未来へつないでいくのでしょうか。

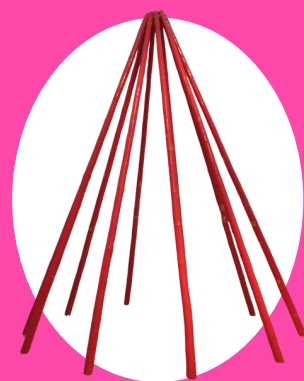
展覧会に関連して開催する本シンポジウムでは、彫刻作品の保存修復に焦点を当てます。第1部では、国立西洋美術館が所蔵するロダン作品の修復を手がけた修復家と、ロダン作品を数多く所蔵する美術館の学芸員を迎えます。制作技法や作品の保全・活用に目を向けながら、作品を知り、その価値を未来へ伝えていくことの意味を考えます。

第2部では、金属、石、複合素材を専門とする、美術館の保存修復担当学芸員3名が登場します。素材の特性によって異なる保存上の課題や、日々の管理、修復のあり方を通して、美術館における彫刻作品の保存修復をひもときます。

「蒐集」から「継承」へ。作品がそこにあり続けるために、その未来を支える美術館の仕事に触れ、ともに考える機会となれば幸いです。



オーギュスト・ロダン 《考える人》
1881-82年 ブロンズ
国立西洋美術館（松方コレクション）
撮影：©上野剛宏



白髪一雄 《赤い丸太》
1955/1985年 ペンキ・木
兵庫県立美術館（山村コレクション）



白髪一雄 《超現代三番叟》
1957/1985年 布、紙、竹、ラッカー
兵庫県立美術館（山村コレクション）

プログラム

13:00

開会

13:05～

第1部 ロダンの制作技法と作品の活用 司会：江上 ゆか（当館 学芸員）

「ロダンの彫刻とその活用・保全について」 新田 建史（静岡県立美術館 上席学芸員）

「ロダンの彫刻について」 藤原 徹（仏国認定保存修復家／前東北芸術工科大学教授）

クロストーク

休憩

14:50～

第2部 美術館における彫刻作品の修復・メンテナンス 司会：横田 直子（当館 保存・修復担当課長）

「国立西洋美術館のブロンズ作品メンテナンスについて」 邊牟木 尚美（国立西洋美術館 主任研究員／保存修復室長）

「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄における屋外作品の保存とメンテナンス」

土谷 あすか（安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄 研究員）

「兵庫県立美術館の立体作品のメンテナンスについて」 岩松 智義（当館 保存・修復担当学芸員）

クロストーク

16:55～

総括 林洋子（当館 館長）

17:15

閉会 ＊閉館18時



美術館HP

お問合せ先 Tel 078-262-1011



国立美術館コレクション・ダイアログ

Collection DIALOGUE

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

登壇者プロフィール

藤原 徹（ふじわら・とおる） **仏国認定保存修復家 / 前東北芸術工科大学教授**

東京造形大学卒業、フランス ツール美術学校修士課程修了。1996年フランス立体保存修復士資格認定合格。佐藤忠良記念財団を経て、宮城県美術館に勤務。東京国立博物館、国立西洋美術館の客員研究員に従事。2004年～2017年東北芸術工科大学教授。主な保存修復作品として、イサム・ノグチの石膏原型（香川文化会館）、オーギュスト・ロダン作「戯れる子供」「洗礼者ヨハネ」（国立西洋美術館）、サルバドール・ダリ作「象徴的機能を持つシュルレアリスムのオブジェ」（諸橋美術館）、佐藤忠良氏石膏原型約114体（宮城県美術館）、鶴岡カトリック教会聖母子像（鶴岡市教育委員会）などがある。

新田 健史（にった・たけし） **静岡県立美術館 上席学芸員**

静岡県立美術館上席学芸員。2001年度以降保存担当として、館内の環境整備、作品等の燻蒸、お客様や職員の安全確保に携わる。2011年以来、各地の文化財レスキューに参加。美術史上の専門は西洋18世紀のヴェドゥータ。2010年「静岡県立美術館の地震対策」、『J.P. ゲッティ美術館、国立西洋美術館共済国際シンポジウム報告書 美術館・博物館コレクションの地震対策』、2018年「ピラネージのピラミッドと七不思議について」『静岡県立美術館紀要』第33号、2024年「静岡県立美術館における虫菌害防除の実務」、『文化財の虫菌害』、no. 87 など。

邊牟木 尚美（へむき・なおみ） **国立西洋美術館 主任研究員 / 保存修復室長**

外資系企業で秘書として勤務後、玉川大学卒業。2003年、英国・国立レスター大学大学院博物館学研究科博士前期課程修了。2005年、英国・ウェスト・ディーン・カレッジ金属工芸品保存修復・修理学研究科専門学ディプロマ終了、サセックス大学大学院保存修復学修士修了。文部科学省科学技術政策研究所客員研究官、国立西洋美術館研究補佐員、東京文化財研究所特別研究員を経て、2015年より国立西洋美術保存修復室長を務め、彫刻を含む所蔵作品の保存修復、予防保存、コレクションケアを担当。

土谷 あすか（つちや・あすか） **安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄 研究員**

奈良芸術短期大学専攻科立体環境造形コース卒業。2010年イタリア・カッラーラ国立美術学校石造彫刻保存修復コース卒業。同年イタリア文化財修復士補の資格取得。2011年イタリア政府奨学金制度にて国費留学。イタリア・ナポリ国立美術学校保存修復5年制コースに第2学年より編入。専攻は石造物および建築装飾・壁画・モザイク装飾。2016年同美術学校を卒業、イタリア国家認定文化財修復士の資格取得。同年より、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄に勤務し、彫刻作品の保存修復・維持管理などに携わる。

岩松 智義（いわまつ・ともよし） **兵庫県立美術館 保存・修復担当学芸員**

東北芸術工科大学で西洋絵画修復を学び、2004年に大学卒業とともに渡独。ドイツの複数の美術館にて絵画保存修復の研修を経て現地の大学（ケルン応用科学大学）の文化財保存修復の学科に進学し絵画、彩色木彫、現代美術の保存修復を学ぶ。大学院修了後に現地でフリーランスの修復家として活動。2017年に帰国し、2019年より現職。兵庫県立美術館では主に保存環境整備、所蔵作品のうち洋画・立体作品の保存修復を担当。